令和５年度
全国学力・学習状況調査の結果の概要

成田市教育委員会

教育指導課

令和５年度全国学力・学習状況調査

目次

１　調査の概要　……　……　……　……　……　……１

（１）全校学力・学習状況調査の目的　……　……　……１

（２）令和５年度全国学力・学習状況調査の実施について　……１

①　実施時期

②　対象学年及び実施した児童・生徒数

③　調査事項及び手法

２　小学校の調査結果　……　……　……　……　……２

（１）教科に関する調査【全国・千葉県平均との比較】…　……２

正答数分布グラフ【全国・千葉県平均との比較】…　……２

問題別傾向【全国平均との比較】　……　…　……３

（２）児童質問紙の全国・経年比較　……　…　…　……４

（３）児童質問紙と回答率とのクロス集計分析　…　…　……５

（４）学校運営における質問紙の全国・経年比較　…　…　……６

３　中学校の調査結果　……　……　……　……　……７

（１）教科に関する調査【全国・千葉県平均との比較】…　……７

正答数分布グラフ【全国・千葉県平均との比較】…　……７

英語「話すこと」調査について　……　……　……８

問題別傾向【全国平均との比較】　……　…　……10

（２）生徒質問紙の全国・経年比較　……　…　…　……11

（３）生徒質問紙と回答率とのクロス集計分析　…　…　……12

（４）学校運営における質問紙の全国との比較　…　…　……13

１　調査の概要

（１）全国学力・学習状況調査の目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

・学校における個々の児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善・充実等に役立てる。

・以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）令和５年度全国学力・学習状況調査の実施について

①実施時期　　令和５年４月１８日（火）

英語「話すこと」調査の実施日：令和５年４月１８日（火）～５月２６日（金）

②対象学年及び実施した児童・生徒数（成田市）

・小学校第６学年、義務教育学校前期課程６学年…１，１５３名

・中学校第３学年、義務教育学校後期課程３学年…１，１１７名

③調査事項及び手法

ア　児童生徒に対する調査

（ア）教科に関する調査

・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題

・各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

㋐小学校調査では、国語、算数についてそれぞれ４５分で実施。

㋑中学校調査では、国語、数学、英語についてそれぞれ５０分で実施。

（イ）質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

イ　学校に対する質問紙調査

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

ウ　今年度の調査の特徴

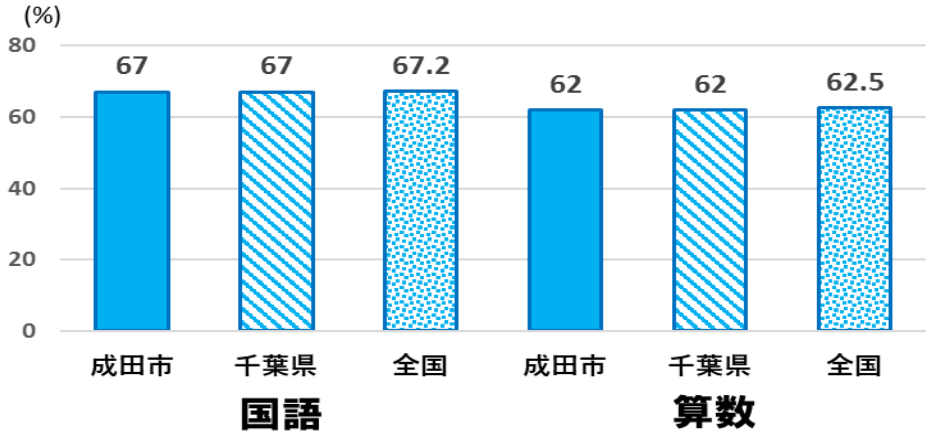
・中学校で４年ぶり２度目となる英語の教科調査を実施。

（「話すこと」調査については、１人１台端末等を用いたオンライン方式により実施）

・質問紙調査について、学校質問紙は全ての学校で、児童生徒質問紙は約 80 万人を対象として、オンライン方式により実施。

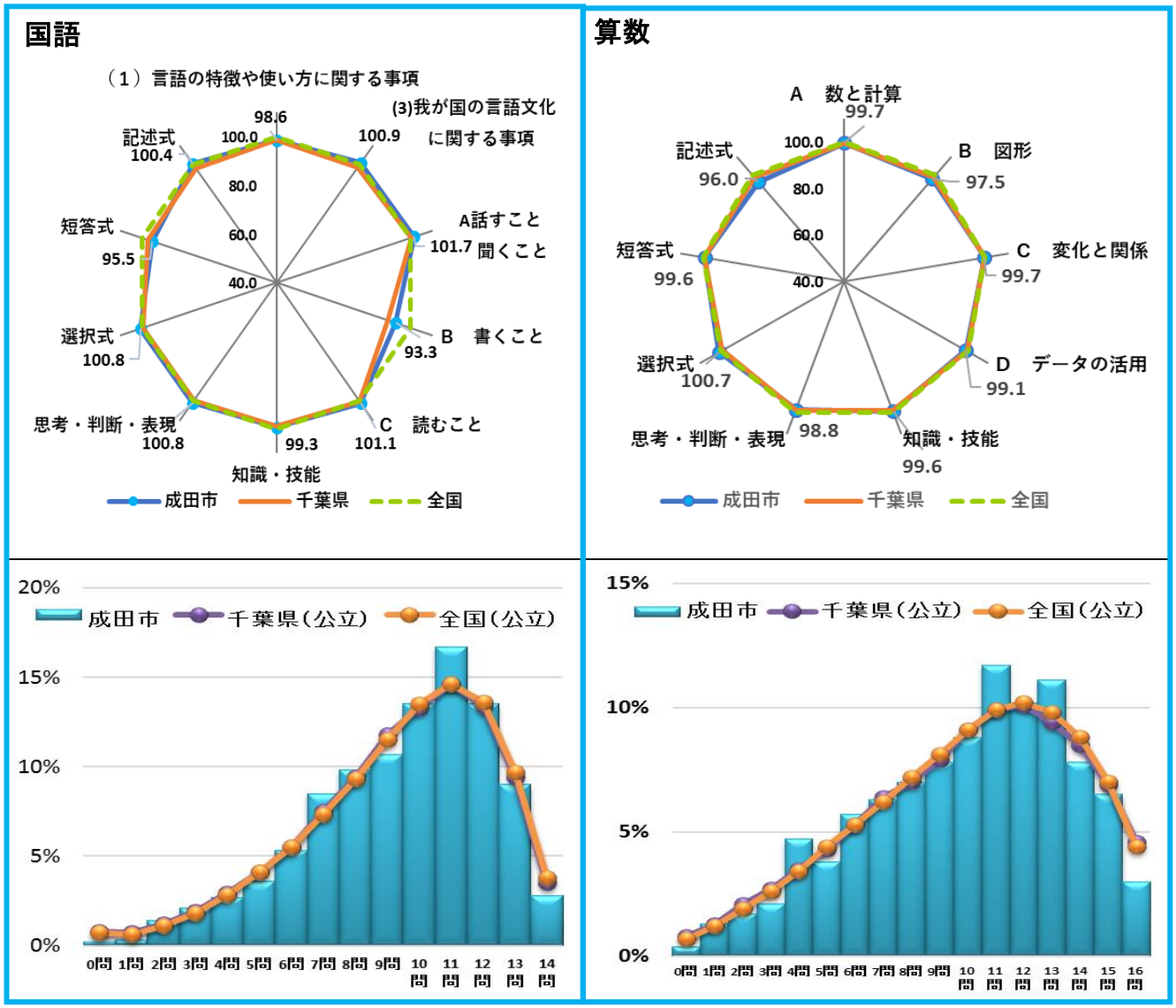
２　小学校の調査結果

（１）教科に関する調査　【全国・千葉県との比較】（平均正答率）



◆領域・回答種別比較　　**下段は正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：児童の割合）**

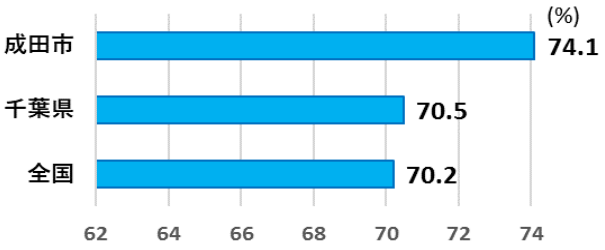
※レーダーチャートは全国の平均正答率を 100 としたときの相対値を表す



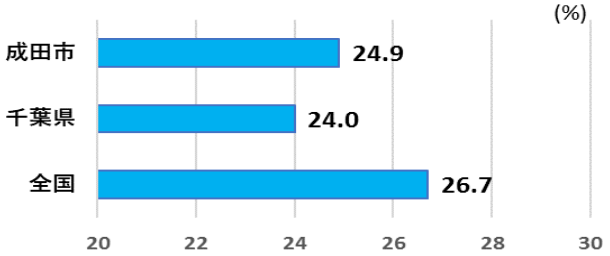
◆問題別傾向　全国平均と比較して正答率が高かった問題　低かった問題

国　語

目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（国語「話すこと・聞くこと」）



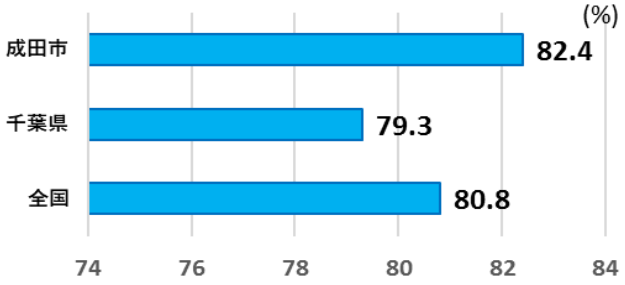
図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（国語「書くこと」）



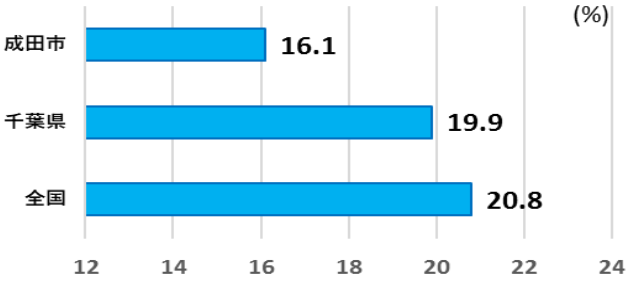
全体としては県・全国平均とほぼ同等であり、中でも「話すこと・聞くこと」の領域で良好な結果が得られた。一方で「書くこと」の領域は全国平均よりも下回った。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにするために、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えられるように、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。

算　数

一の位が０の二つの２位数について、乗法の計算をすることができる。（算数「数と計算」）



高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。（算数「図形」）

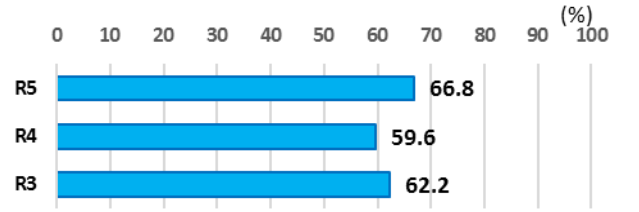


計算問題に対しては、処理の技能が高く、ほぼ全ての正答率が全国平均と同等または上回っている。それに対し、三角形の面積の大小比較を説明する問題の正答率が大きく下回っている。底辺が数値で示されているのに対し、高さが「同じ」であることが具体的な数値で示されていないために比較できない。つまり、主体的に解決方法を見い出す力、それを記述する力に課題が見られた。同様に、記述式の問いについては、全て全国平均を下回る結果となった。

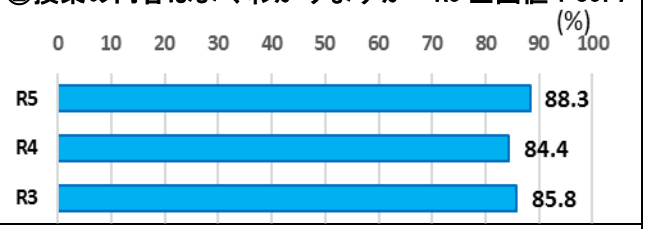
（２）児童質問紙の全国・経年比較（小学校）

※⑤⑥以外、回答は「当てはまる、どちらかと言えば当てはまる」を合算した値

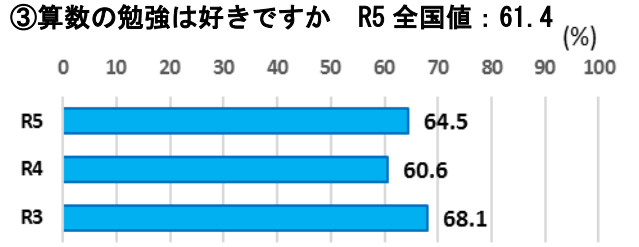
①国語の勉強は好きですか　R5 全国値：61.5



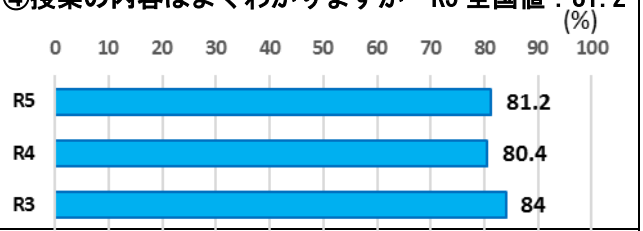
②授業の内容はよくわかりますか　R5 全国値：85.7



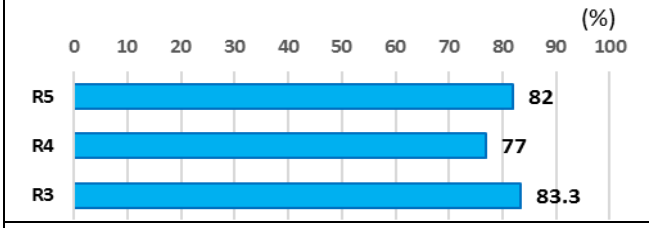
③算数の勉強は好きですか　R5 全国値：61.4



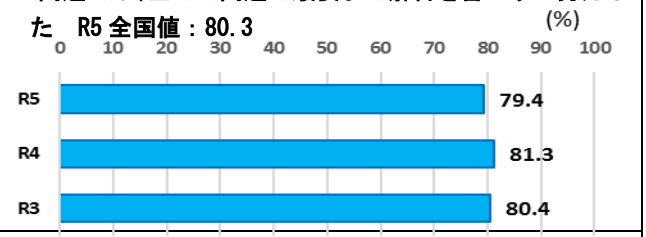
④授業の内容はよくわかりますか　R5 全国値：81.2



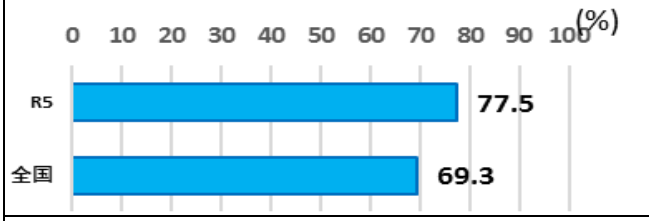
⑤国語の書く問題では、全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した　R5 全国値：80.7



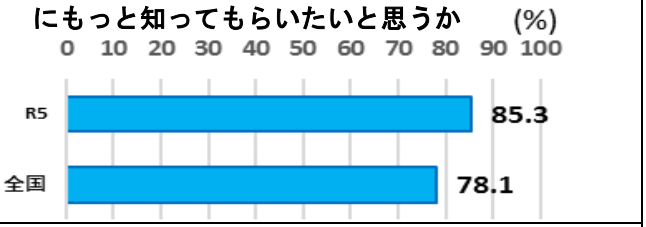
⑥算数の言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題では、全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した　R5 全国値：80.3



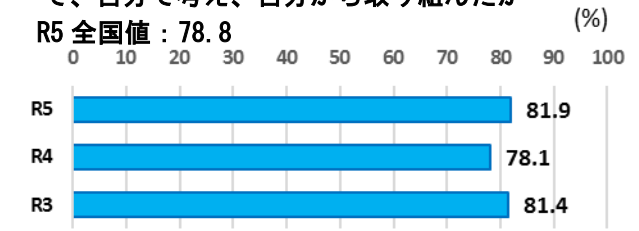
⑦英語の勉強は好きですか



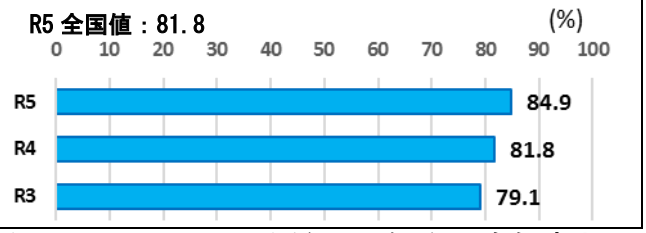
⑧日本や住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか



⑨５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだか
R5 全国値：78.8



⑩学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか
R5 全国値：81.8



①②③④国語や算数への興味・関心は全国平均より上回っているだけでなく、昨年度と比較しても大きく上昇している。授業がわかるかどうかの質問に関しても、昨年度よりも肯定的に回答した割合が高くなっており、８割以上の児童が授業の内容がわかると回答している。

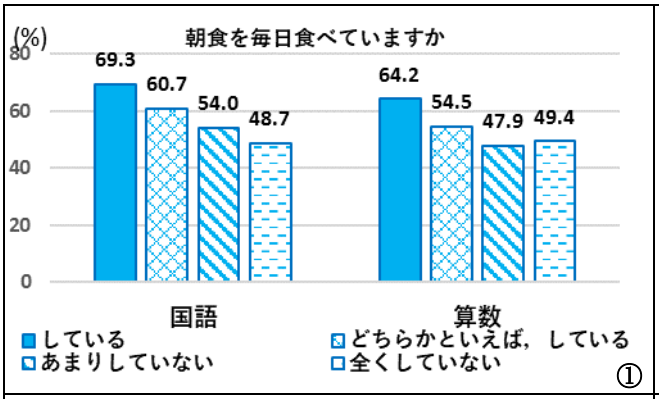
⑤⑥国語科の「書く問題」では、最後まで解答を書こうと粘り強く取り組んだ児童の割合が、昨年度と比較して増加している。一方で、算数科の「書く問題」では、最後まで解答を書こうと努力した児童の割合は、昨年度よりも下降傾向にある。国語科だけでなく、あらゆる教科で「書く」活動を大切にし、力を身に付けられるようにする必要がある。

⑦⑧英語への興味・関心が全国平均より高い。小１からの英語学習の成果が現れていると考えられる。

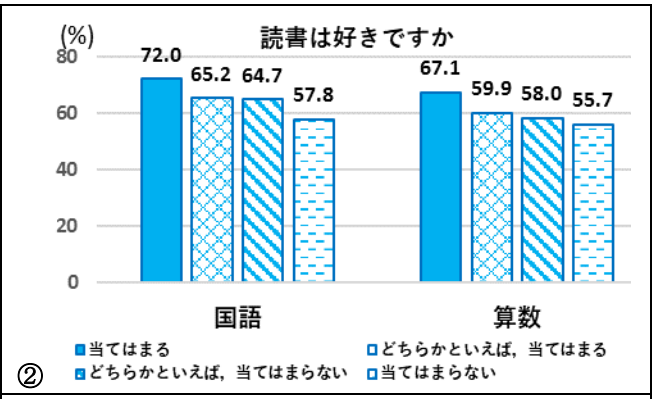
⑨⑩課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだり、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童の割合が上昇傾向にあり、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の工夫改善がなされていると考えられる。

（３）児童質問紙と回答率とのクロス集計分析（小学校）

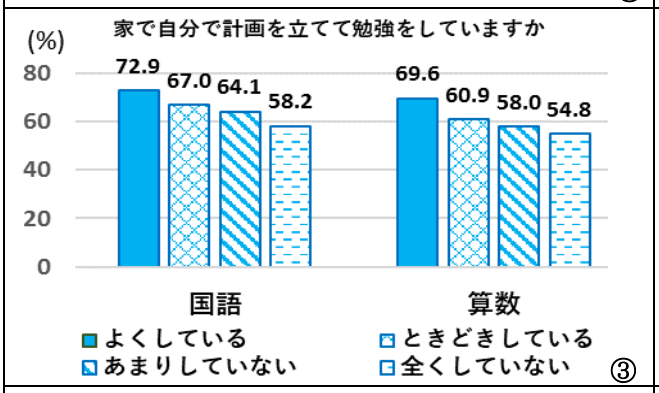
※グラフの縦軸は、平均正答率を表す。



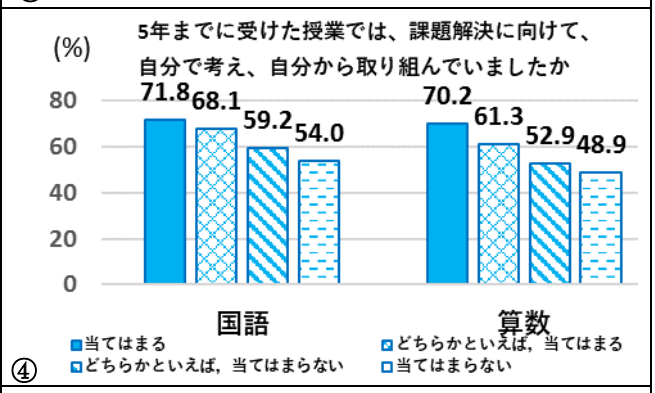
①



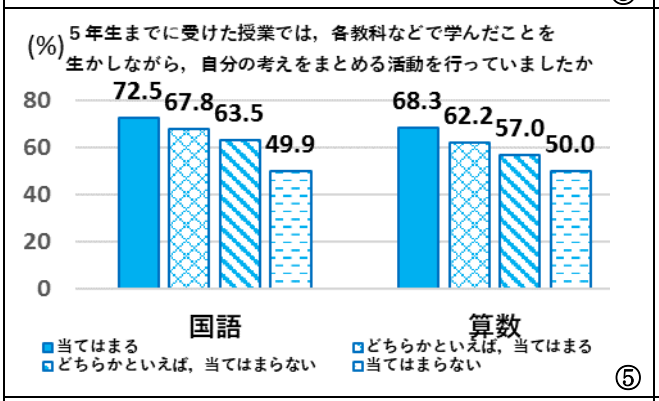
②



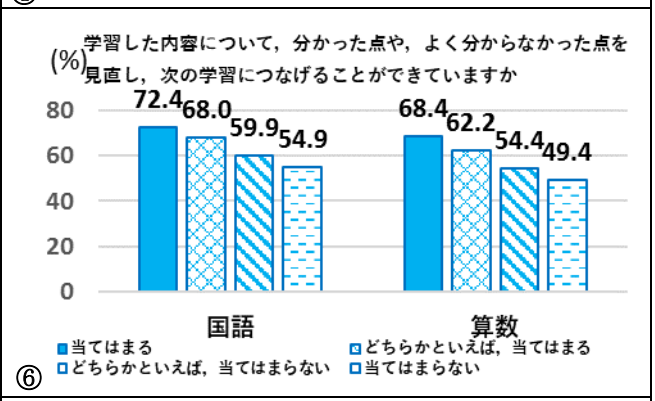
③



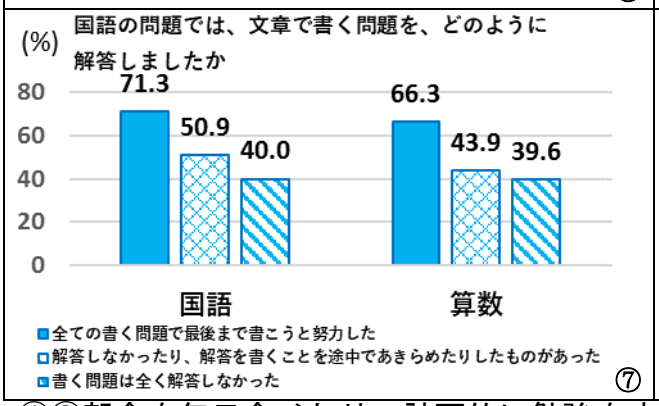
④



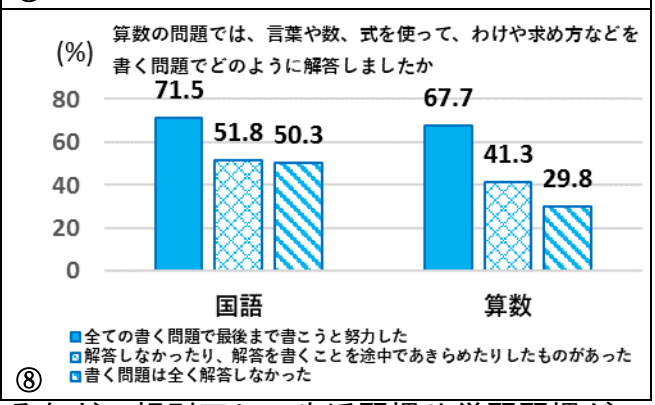
⑤



⑥



⑦



⑧

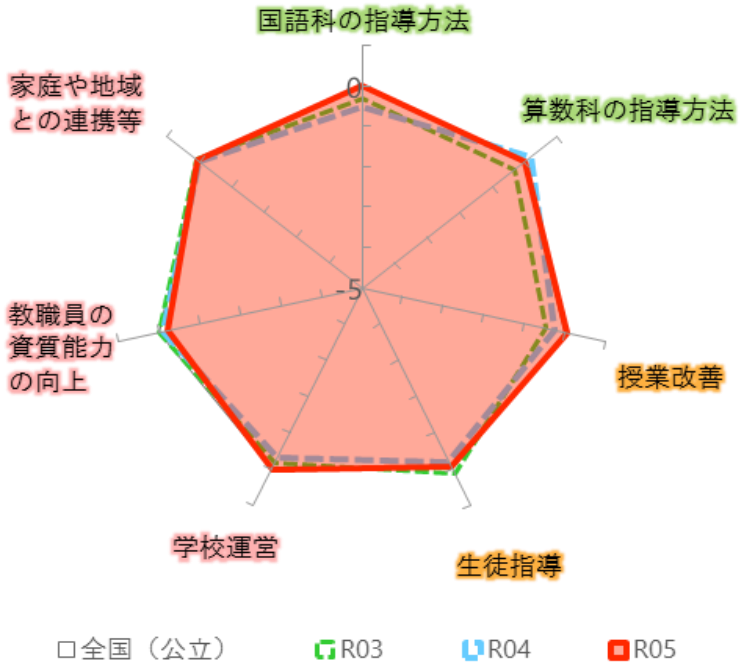
①③朝食を毎日食べたり、計画的に勉強をするなど、規則正しい生活習慣や学習習慣ができている児童ほど高い正答率が見られた。

②読書が好きな児童ほど、高い正答率が見られた。

④⑤⑥課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んだり、分かった点や、よく分からなかった点を見直して次の学習につなげたりするなど、主体的に学び、ふり返りを大切にしている児童ほど、高い正答率が見られた。また、各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動も、学習成果が上がる要因の一つになっていると考えられる。

⑦⑧国語も算数も、書く問題を最後まであきらめずに取り組める児童ほど正答率が高い。難しい課題にも「まずはやってみよう」と思えるように見通しをもって課題に取り組めるような授業の工夫改善が必要である。

（４）学校運営における質問紙の全国平均との比較（小学校）※全国平均を０とする



【成果】

・**「授業改善」**…「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習活動を工夫したか」同様に「授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」などの授業に関する質問について「よく行った・どちらかといえば行った」と回答した学校は県・全国平均を上回った。

・**「学校運営」**…「ICT を活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか」について、「多くの校務で取り組んでいる・一部の校務で取り組んでいる」と回答した学校は合わせて 100%で、県・全国平均を上回った。

・**「国語科の指導法」**…「調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行ったか」同様に「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったか」について「よく行った・どちらかといえば、行った」と回答した学校は、県・全国平均を上回った。

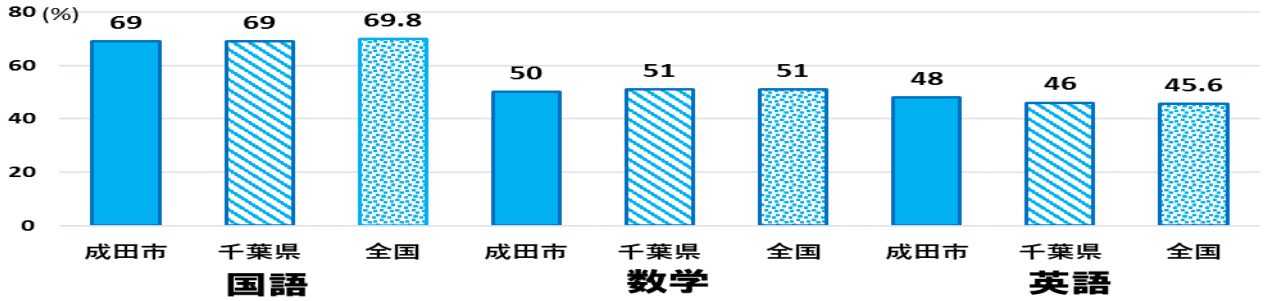
【課題】

・**「生徒指導」**…調査対象学年の児童について「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うか」「礼儀正しいと思うか」の質問について、「そう思う」と回答した学校は県・全国平均と比較すると課題が見られた。

・**「教職員の資質向上」**…「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立しているか」「児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っているか」について、「よくしている」と回答した学校は県・全国平均を下回り、課題が見られた。

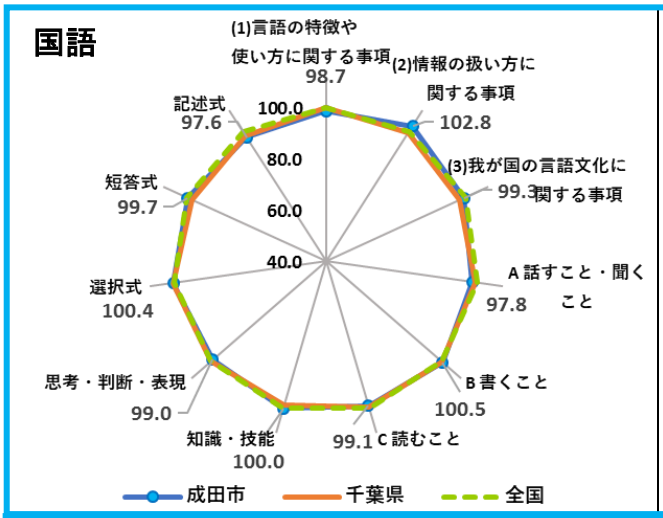
３　中学校の調査結果

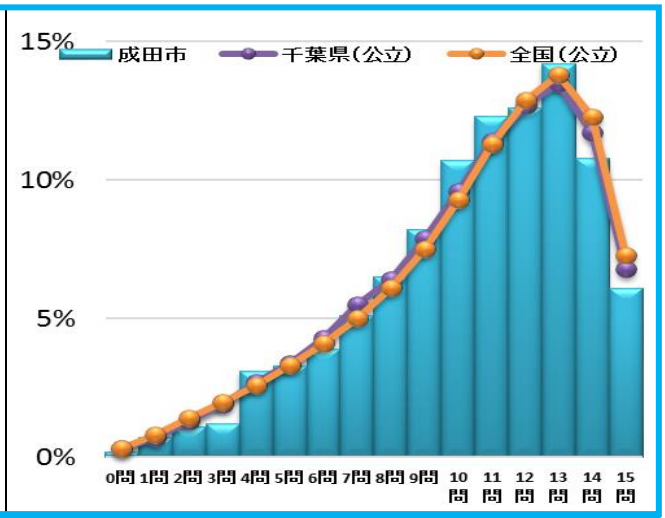
（１）教科に関する調査　【全国・千葉県との比較】（平均正答率）

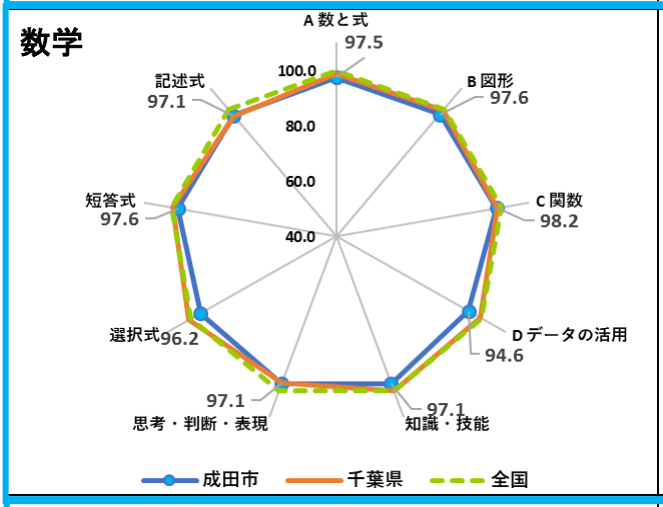


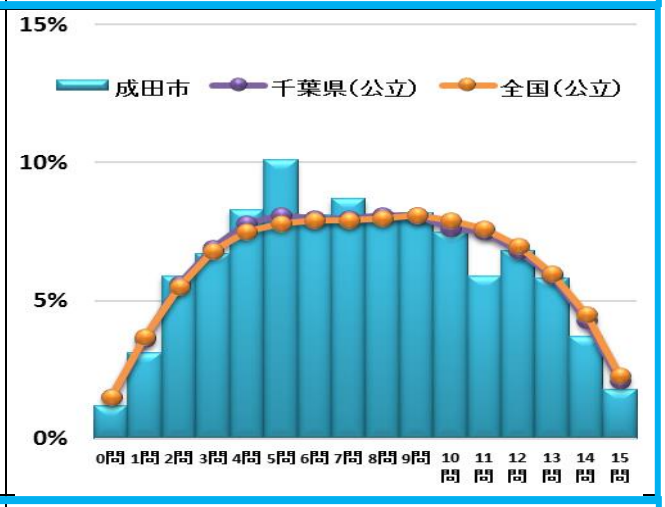
領域・回答種別比較　　**右列は正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：生徒の割合）**

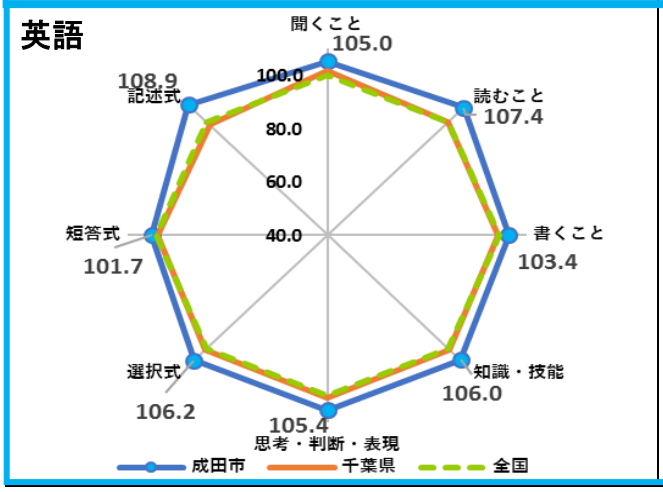
※レーダーチャートは全国の平均正答率を 100 としたときの相対値を表す　　英語は「話すこと」調査の結果を除く。

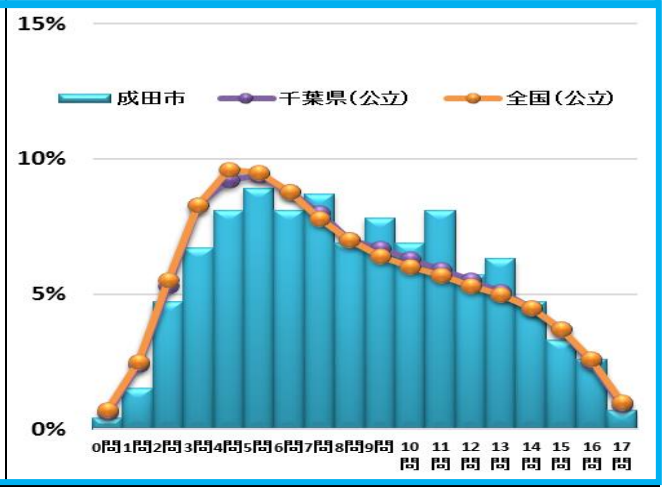






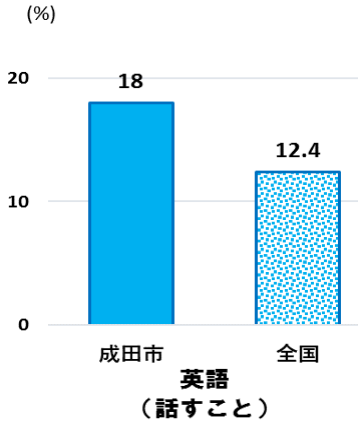






中学校英語　話すこと調査

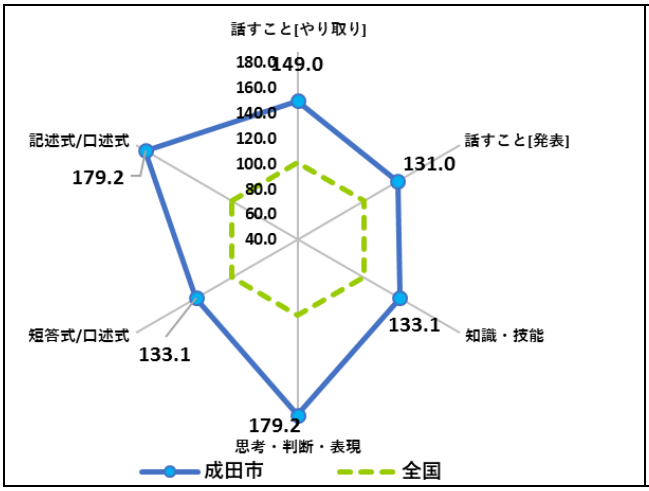
平均正答率

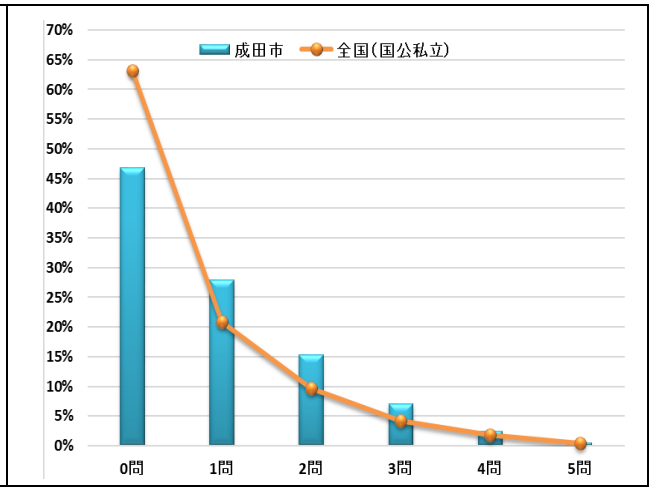


※全国の正答率等は、全て推計値。
推計値とは、当日（４／１８）実施校の調査結果（499 校、41,966 人）に統計的補正をかけ、全国値として推定したものです。
本市の正答率等は、４月１８日～５月２６日の当日及び期間内で実施した市内中学校（義務教育学校後期課程）１０校の平均正答率を示しています。
母体数が違うため、全国の正答率と比較することは適当ではありません。あくまで目安として参考にしてください。
なお、県の平均正答率は公表されていないため、記載しておりません。

◆領域・回答種別比較　右列は正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：生徒の割合）

※レーダーチャートは全国の平均値を 100 としたときの正答率を示す。





◆問題別傾向（「話すこと」調査）
～本市の傾向と授業で大切にしたいこと～

全ての問題に対し無解答率は低く、何かしら解答している生徒の割合が高かった。

大問１は「動物園でのやりとりの中で即興で伝え合うこと」及び「考えとその理由を述べ合うこと」ができるかどうかをみる問題であった。

相手からの質問を受け、

（１）誕生日

（２）次の予定

（４）お土産としてふさわしいものとその理由を適切に答えることができた生徒の割合が高かった。

「話すこと」調査の問題は５問あります。問題音声が流れる回数は、全て１回です。解答は、全て英語ではっきりと話してください。

大問１　あなたは、オーストラリアからの留学生ソフィアのために動物園へ行く予定をたてました。今日がその当日です。会話が続いていくように、質問に答えたり、あなたの考えを伝えたりしましょう。指示がある場合は、その指示に従って答えましょう。問題は（１）から（４）まであります。解答時間は（１）から（３）が７秒、（４）が 20 秒です。それでは、始めます。

（１）A baby elephant!　How cute! ... I can read some Japanese. Its name is Taro... it's a boy... and, what does this say?
（解答時間７秒）

（２）I was so excited to see the baby elephant.　So, what are we going to do next?
（解答時間７秒）

国立教育政策研究所「令和５年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」より引用、以下同じ

正答率が低かった問題は、（３）動物園でのやりとりの中で留学生に質問をする問題である。

正答例）What food do they eat?
　　What food do kangaroos eat?

に対し、誤答例として多かったのは、

誤答例）What food kangaroo eat?
　　What they do eating?

など、助動詞（do または does）の脱落や語順の誤りであった。他には、be 動詞の二重使用などがあり、疑問文の特徴を理解し、基本的な語や文法事項等を用いて質問することに課題が見られた。言語活動と合わせ、発話の正確さを高めることも必要である。

（３）Look! Kangaroos! They are really famous in my country, Australia. I know a lot about them. Do you have any questions about kangaroos? Please ask me.
（解答時間 7 秒）

（４）I want to buy a gift for my host brother. He is only 4 years old. Which one should I buy for him, a picture book, animal cookies or a T-shirt? And why do you think so?
（解答時間 20 秒）

大問２（１問）は「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるか」をみる問題であった。「話すこと」調査の問題５問のうち、正答率が最も低い問題となった。正答の条件としては、

①話し手の意見に対する自分の考えを伝えている。

②①の理由について伝えている。

の２点が必要であったが、本市では、この２つの条件を満たすことができない解答が多かった。聞いた内容について、自分の考えやその理由を話すための基本的な表現が身に付いていないことが考えられる。日頃から、聞いたり読んだりしたことを基に自分の考えや気持ちを述べる機会を授業の中で設定していくことが重要である。

大問２　英語の授業で、ニュージーランドから来た留学生が環境問題についてのプレゼンテーションをしています。その発表やスライドの内容をもとにして、あなた自身の考えとその理由を英語で伝えましょう。１分間話す内容を考えたあと、30 秒で話してください。メモを取ってもかまいません。それでは、プレゼンテーションを聞きましょう。

Do you buy plastic bags at the store? Or, do you use eco bags?

Look at this picture. There are many plastic bags in the sea. It is a serious problem today.

Now, look at this. I was really surprised to see this because over 25 % of people in Japan buy plastic bags at stores. In New Zealand, stores do not sell plastic bags and we take eco bags.

Some people may say plastic bags are becoming more eco-friendly, but I recommend stores in Japan should stop selling plastic bags. What do you think?

それでは、話す内容を考えましょう。（考える時間１分）

それでは、30 秒で話してください。（解答時間 30 秒）

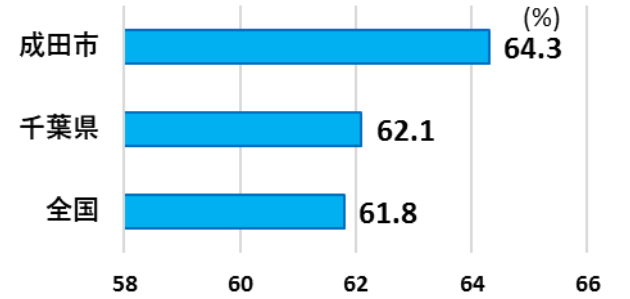
市内中学校では、現在英語科の標準時数に 15 時間から 18 時間を加え※1拡充英語授業を行っている。拡充英語授業では、標準時数の中で身に付けた知識・技能を活かし、設定された場面の中で、ある程度自由に表現することにより、既習事項をより定着させたり、さらに表現力を伸ばしたりすることをねらっている。通常の授業と結びつけながら、計画的に拡充英語授業を実施している学校は、無解答率が低く、正答数も高い傾向にあった。今後も、既習事項を活用し、表現力を高めるために拡充英語授業を活かしていくことが大切である。

※１　平成２０年度から教育課程特例校として文科省から指定を受け、時数や内容を地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するために、本市の特色を活かした特別の教育課程として、標準時数に１学年＋１５時間、２・３学年＋１８時間を加えた、表現力を高めるための授業時間である。この拡充された時間の指導計画は成田市教育委員会と市内中学校の教員で構成される作業部会で作成し、毎年見直し、修正を図っている。

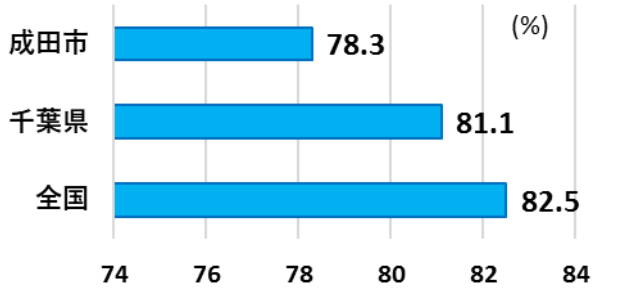
◆問題別傾向　全国と比較して正答率が高かった問題　低かった問題

国　語

具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（国語「(2)情報の扱い方に関する事項」）



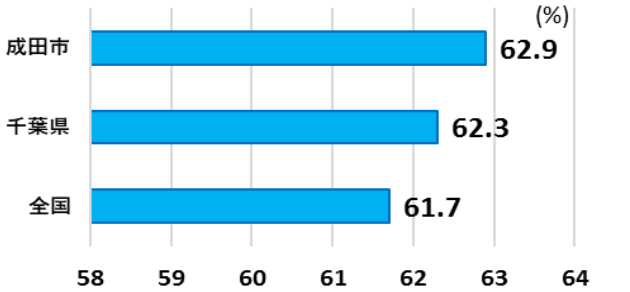
聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる。（国語「話すこと・聞くこと」）



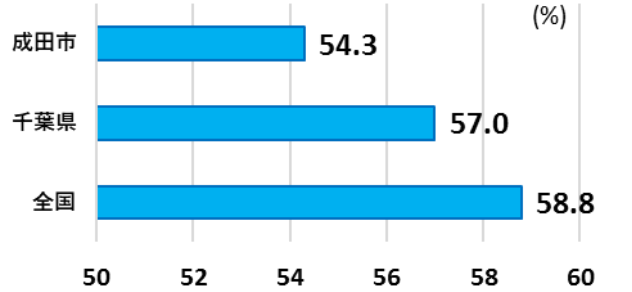
全体としては県・全国平均とほぼ同等であるが、「話すこと・聞くこと」の領域で県・全国平均を下回った。聞き取ったことを基に、自分の考えをまとめる際には、聞き取った話の内容を整理し、話し手と自分の考えとを比較したり、関連付けたりできるようにすること、必要に応じて重要な情報を書き留めるなど正確に理解できるようにすることが大切である。

数　学

事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができる。（数学「関数」）



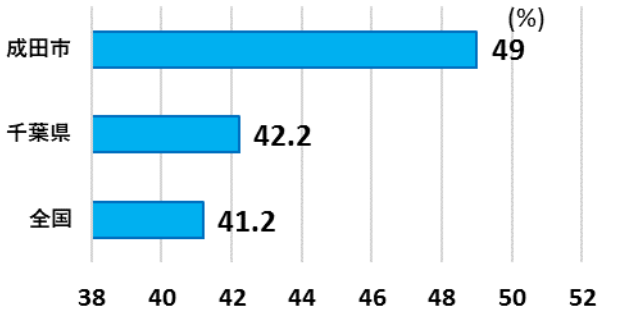
目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。（数学「数と式」）



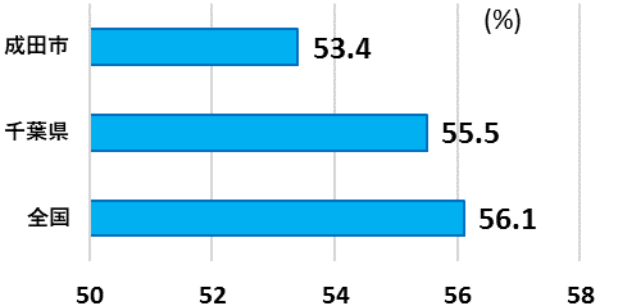
グラフの読み取り、目的に沿った解釈の仕方等、「関数」に関しては全国平均を若干上回った。それに対し、「数と式」では、自然数等、知識・技能として定着が必要な内容が身に付いていない傾向が見られる。また、計算の仕方を考え、身に付けることは大切だが、ある事柄が成り立つ過程を振り返り、新たに成り立つ事柄を見い出す活動が学習の中に取り入れられることが必要であると考えられる。「箱ひげ図」については、全国平均と同等となり、昨年度からの改善が見られた。

英　語（話すこと調査を除く）

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる。（英語「聞くこと（ア）」）



社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができる。（英語「読むこと（ウ）」）

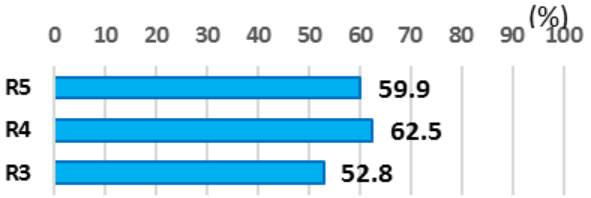


全体としては、県及び全国平均を上回った。「必要な情報を聞き取る」問題においては、状況に応じ、自分にとって必要な情報が何か判断した上で聞き取ることができた生徒が多かった。社会的な話題について要点を捉える問題は全国平均を若干下回った。要点を捉えるためには、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことを判断する必要がある。繰り返し使われている言葉、問いかけ、接続詞を手がかりに捉えるとよい。

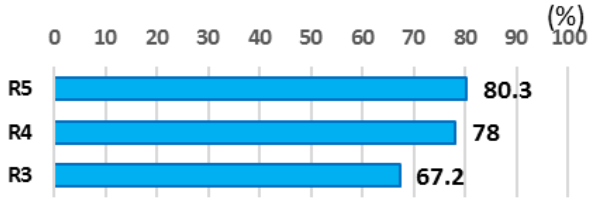
（２）生徒質問紙の全国・経年比較（中学校）

※⑦⑧以外、回答は「当てはまる、どちらかと言えば当てはまる」を合算した値

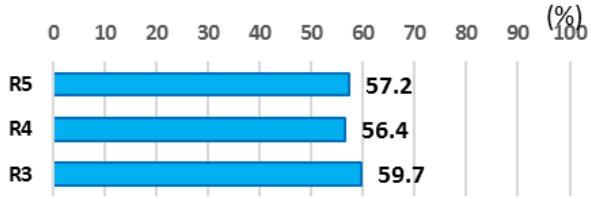
①国語の勉強は好きですか　R5 全国値：61.4



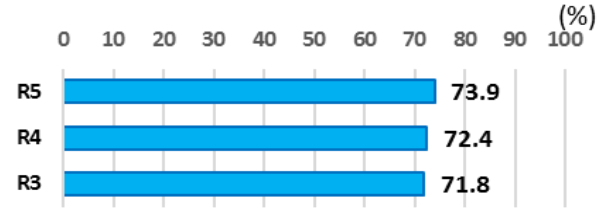
②授業の内容はよくわかりますか　R5 全国値：80.0



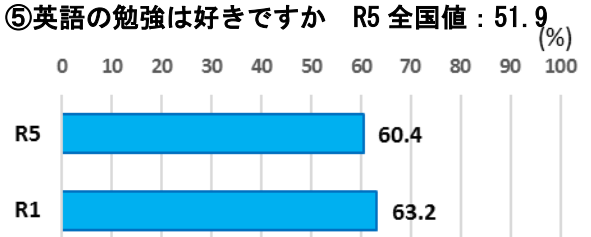
③数学の勉強は好きですか　R5 全国値：56.7



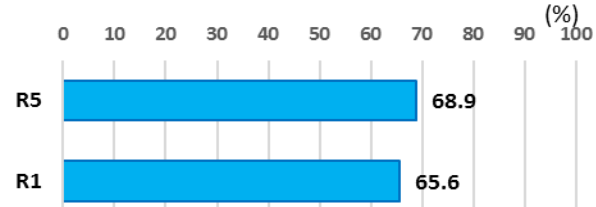
④授業の内容はよくわかりますか　R5 全国値：73.3



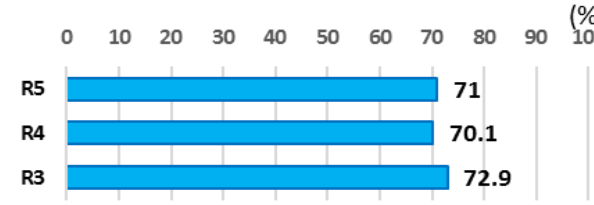
⑤英語の勉強は好きですか　R5 全国値：51.9



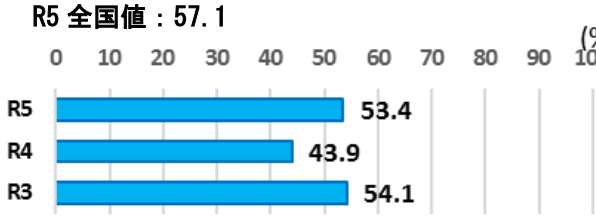
⑥授業の内容はよくわかりますか　R5 全国値：63.9



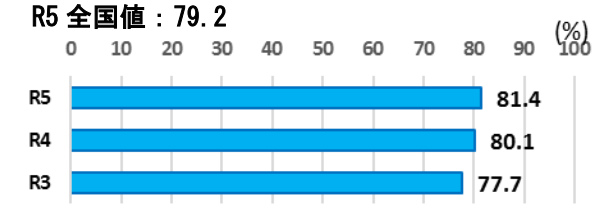
⑦国語の「書く問題」では全ての問題で解答を最後まで書こうと努力した R5 全国値：74.3



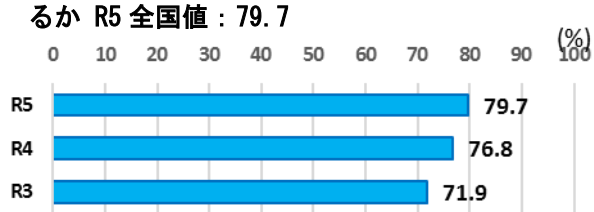
⑧数学の言葉や数、式を使って、説明する問題では、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した R5 全国値：57.1



⑨２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだか R5 全国値：79.2



⑩学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか R5 全国値：79.7



①②⑤⑥国語科や英語科への興味・関心は昨年度（英語は令和元年度）と比較すると３ポイント程度減少しているが、授業がわかるかどうかの質問に関して、肯定的に回答した生徒の割合は昨年度（英語は令和元年度）よりも上昇している。

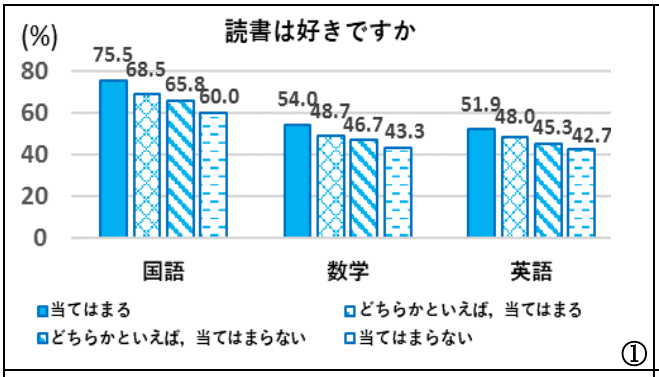
③数学科への興味・関心や授業がわかるかどうかの質問に関して、昨年度と比較して若干ではあるが上昇傾向にある。

⑦⑧国語科や数学科の「書く問題」について、最後まであきらめずに解答を書こうと努力した割合は全国平均と比較すると下回るが、昨年度と比較すると若干増えているため、引き続き、書く力を高めるための授業改善を推進したい。

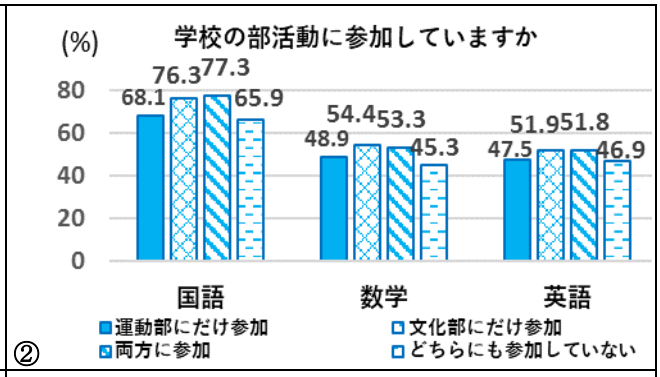
⑨⑩課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだり、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒が上昇傾向にあり、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の工夫改善がなされていると考えられる。

（３）生徒質問紙と回答率とのクロス集計分析（中学校）

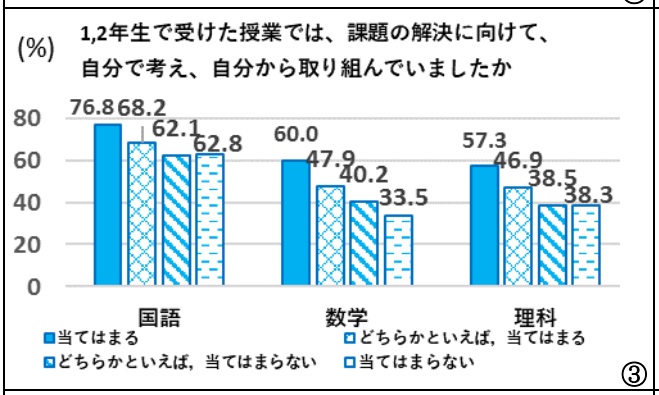
※グラフの縦軸は、平均正答率を表す。



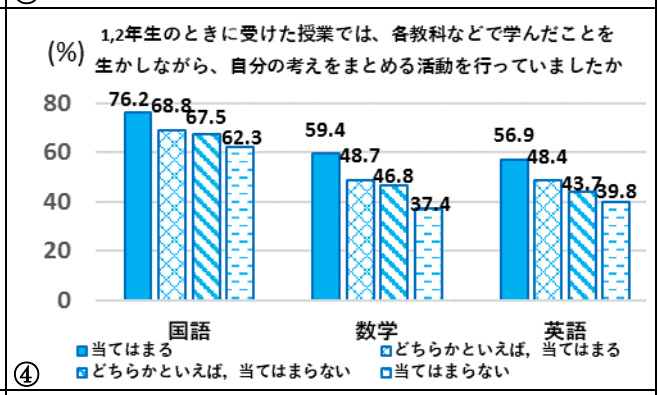
①



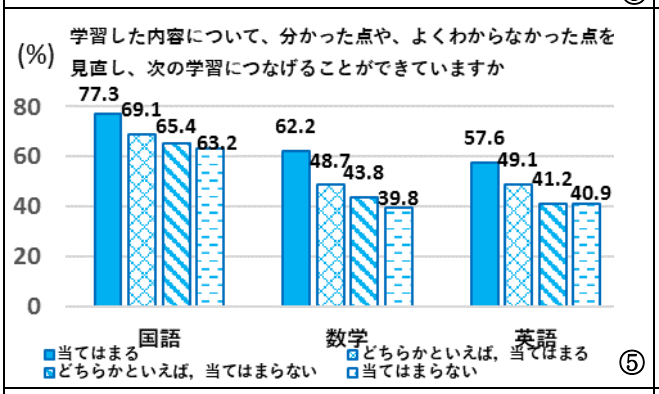
②



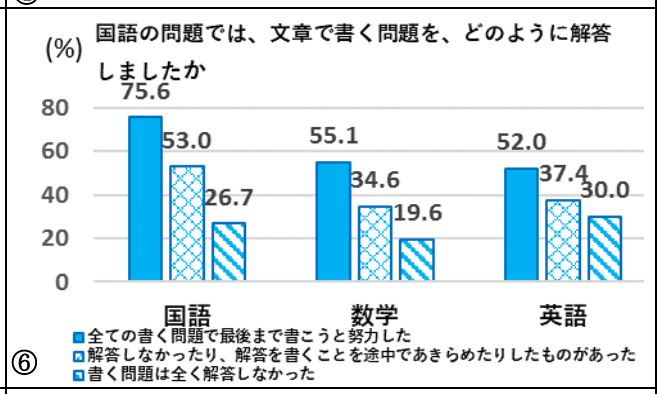
③



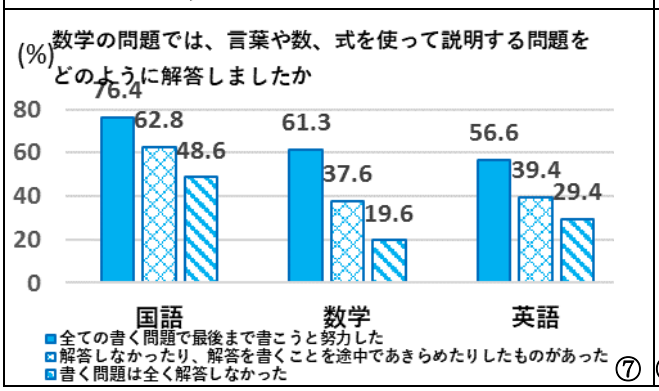
④



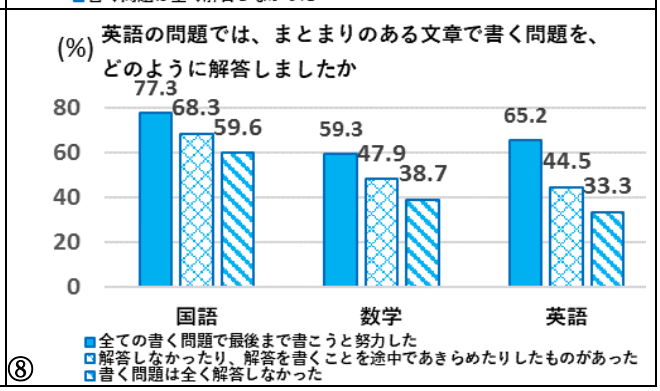
⑤



⑥



⑦



⑧

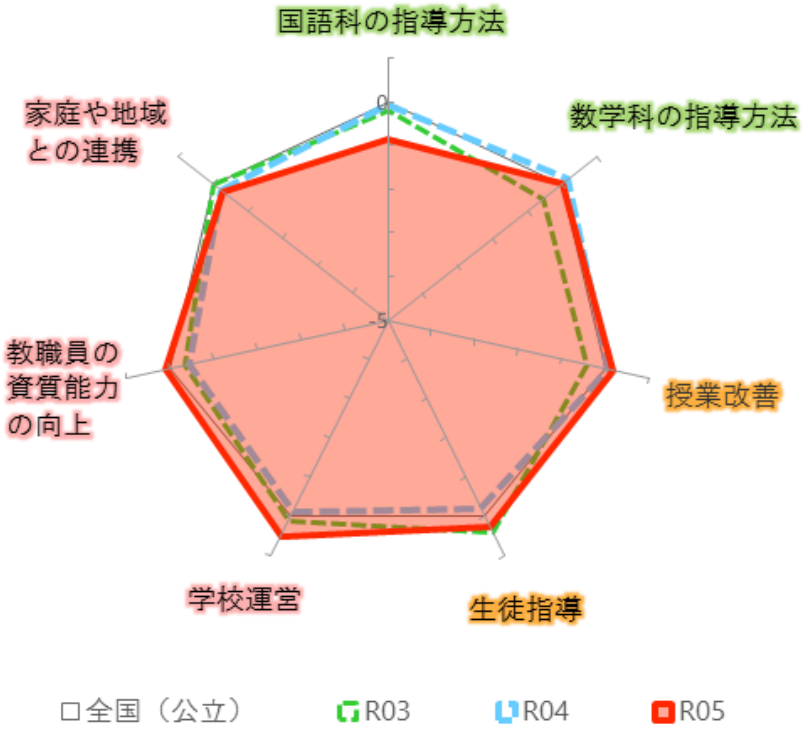
①読書が好きな生徒ほど、高い正答率が見られた。特に国語科において顕著である。

②運動部・文化部の両方の部活動に参加している生徒ほど高い正答率が見られた。勉強以外にも夢中になれることがある方が、より学習の成果が現れやすいと考えられる。

③④⑤課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んだり、分かった点や、よく分からなかった点を見直して次の学習につなげたりするなど、主体的に学び、ふり返りを大切にしている生徒ほど、高い正答率が見られた。また、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動も、学習の成果が上がる要因の一つになっている。

⑥⑦⑧国語、数学、英語の書く問題では、最後まであきらめずに取り組める生徒ほど正答率が高い。難しいと思う問題にも「まずはやってみよう」と思えるように、見通しをもって課題に取り組めるような授業の工夫改善が必要である。

（４）学校運営における質問紙の全国平均との比較（中学校）※全国平均を０とする



【成果】

・**「授業改善」**…「調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているか。自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか。」などの質問について、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答した学校は県・全国平均を大きく上回っており、授業改善に対する教職員の意識が高まっている様子がうかがえる。

・**「学校運営」**…「ICT を活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか。」について、「多くの校務で取り組んでいる・一部の校務で取り組んでいる」と回答した学校は合わせて 100%で、県・全国平均を上回った。

・**「教職員の資質向上」**…「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っているか」「生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っているか」について「よくしている、またはどちらかといえば、している」と回答した学校は県・全国平均上回り、教職員の資質向上のための研修を充実させている学校が増えている。

【課題】

・**「国語科の指導法」**…「調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったか。」同様に「前年度までに、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったか。」について、「よく行った・どちらかといえば、行った」と回答した学校は県・全国平均を大きく下回っているだけでなく、「あまり行わなかった」と回答した学校は県・全国よりも多く、国語科の指導については、課題が見られた。令和３年、４年度と比較しても下降傾向にある。